

草津市立矢倉小学校通信 令和3年11月15日 NO.13



やぐら通信

～ひとみキラキラ豊かな心と体の矢倉っ子～

よりよく学ぶための土台

幼少期の体験が、よりよく学んでいくための土台をつくるという。

水泳の学習ならば、顔を水になかなか浸けられない、息を止めて水中にもぐれないというのは、たいてい生活経験によっている。朝起きて顔をどんなふう洗ってきたか、お風呂でシャワーを頭からかけられてきたのかといったことに左右されるとのこと。確かに、私の場合、人並みに泳げるようになったのは、いとこたちに川へ魚取りに連れていかれ、深みに何度となく放り込まれたりしたこと。風呂で頭を洗ってもらうときは、めんどうだからだろうか、ひしゃくですくったお湯を頭から情け容赦なくぶっかけられたこと、こうした一連のことが幸いしたと言える。

工作や物づくりでもそうだ。折り曲げる、切る、そろえる、数えるなど、何度もしくじりながらも、お手伝いや遊びを通してさせてもらい、扱い方や方法を教えてもらった。その中で、相談し見通しを立てること、ねぎらい、ほめるといった仕事の意味合い、仕事に対しての向き合い方を体得させてもらった。

根気強さも同様らしい。同じことの繰り返し、積み重ねを経たその先には、かならずごほうびのようにして一つの成果が得られる、そう理解できれば、一人でもじっと続けていこうとする気構えが育つ。

こうした体験が幼少期にあったからだろうか、今の私は、自宅の庭先の草取りや、小さな家庭菜園の挑戦にやりがいを感じている。野菜くずや落ち葉などを庭土にすき込み、じっくりとフカフカの土にしつらえていく時間の流れも楽しみだ。ミミズが慌てて逃げ出すのを見つけうれしくなり、育てている大根の葉に青虫がいるのを見つけては、ゴメンねと取り除き、我ながら大事な仕事ができたと喜んでいる。そんな土いじりの時間が実に心地よい。

ずいぶん前、母は、私が小さかった頃のことを思い出しては笑っていた。

…おまえはいつもいつも土いじりが大好きで、気がつけば小さいおもちゃのスコップを片手に庭先をガリガリ掘ったり、埋めたりしていた。その時の顔つきが真剣でなあ、夢中になっているときは、決まってベロを出して、よだれが垂れる。垂れたところをめがけてスコップでトントンつつき、砂利をすくっては返し、返してはすくっていた。よくもまあ、あきもせず、日がな一日できるもんだと感心したよ…。

そんな話をしながら、見せてくれたスナップ写真には、確かにスコップ片手に庭先にしゃがみこみ、ベロを出して真剣に遊んでいる私がいる。なるほどおもしろいと笑えてきた、と同時に、土いじりは汚いからやめなさいなどと言わず、よくぞ心ゆくまで夢中にさせてくれたものだ、と感謝の念が湧いてきた。

こんなことを思いめぐらしながらの土いじりを終え、居間に戻る。と、幼少期のベロを出しながら土いじりをしていた話を聞いている妻からは、ねぎらいの言葉とともに、ベロを出してないよね、ご近所さんにみられてないよね、などと茶化された。出していないに決まってるじゃないかと言り返したものの、内心、どうだったかなあと、不安になってしまった。

校長 大林道範